

8. 交通行政について



昨年 9 月定例会で我が公明党二宮眞盛議員の代表質問で交差点付近にいる歩行者が巻き込まれる事故を防止するための改善策を伺いました。警察本部長は、「事故多発交差点については、交通の整理、歩行者の保護、誘導、違反取締りあるいは道路管理者等とも連携した道路交通環境の整備などに取り組む。そして横断歩行者等妨害については、死亡事故に直結する危険性が極めて高い悪質な違反であるとの認識のもと、飲酒運転と並ぶ最重点取締り罪種に指定し、取締りを強化する」との答弁がありました。

そこで、交差点等における交通事故防止対策について、この 1 年間の成果を示していただき、本部長の見解を伺います。

関連して歩行者を守る視点から、信号機がない横断歩道等で運転者に一時停車を促し、歩行者保護の意識を持たせることを狙いとして、埼玉県警が今年 6 月から横断歩道脇の電柱に「止まってくれてありがとう」の感謝メッセージ型反射式電柱幕を張ることにより、停車率が向上したとの報道がありました。本県も横断歩道での歩行者保護対策強化として、まず危険個所から反射式電柱幕を設置してはいかがでしょうかお答えください。

次に、視覚障がい者の安心通行について伺います。

目が不自由な人向けに、スマホで信号の色を音声や振動で伝え、道路横断を支援する機器を警察庁が令和 2 年度末までに全国で 130 基を増設し、2021 年度には、約 2,000 基の信号に設置する方針を決めました。25 億円を 21 年度予算の概算要求に計上し、東京都や政令指定都市から整備し、その後、全国に普及させるとの考えを示しました。

現在は、誘導音で信号を知らせる音響式信号機は、全信号機の 11.7% と低く、夜間や早朝は鳴らない設定で時間外での死亡事故も起きています。

そこで伺います。スマホによる横断支援システムは、本県においても視覚障がい者が安心して通行出来るように病院・盲学校・スーパー等付近の信号機に整備してはいかがでしょうか。現在の設置状況と今後の整備状況についてお答

えください。

【福田警察本部長の答弁】

◆交差点等における交通事故防止対策

県警察では、横断歩道マナーアップ運動や小学校の登下校時における保護誘導活動と併せ、横断歩行者等妨害や信号無視などの交差点関連違反の取締りを強化し、本年10月末現在、126,917件、前年同期比プラス12,011件を検挙しています。

また、右折矢印信号、歩車分離式信号の導入、横断歩道の新設・更新等、道路交通環境の整備に取り組んでいます。

その結果、本年10月末現在、交差点及びその付近における交通事故の発生件数は、9,584件、前年同期比マイナス2,525件、死者数は29人、前年同期比マイナス7人といずれも減少するなど、一定の効果が現れているものと認識しています。

引き続き、交差点等における交通事故を防止するため、各種対策に取り組んでいきます。

◆反射式電柱幕の設置について

議員提案の反射式電柱幕については、埼玉県警察が街頭キャンペーンや交通指導取締り等の各種取組と併せて設置しているもので、そのうち4か所を検証した結果、一定の効果があったものと承知しています。

県警察としては、横断歩行者等妨害などの取締りや、高い反射性能を有する視認性に優れた道路標識・標示への新設・更新等、これまで取り組んできた交通事故防止対策の結果を踏まえ、議員提案の対策に係る全国の警察や自治体等の対応を注視しつつ、横断歩道における歩行者の安全を確保するための交通安全対策の在り方について、研究していきます。

◆横断支援システムについて

Bluetooth（ブルートゥース）を活用し、スマートフォン等に対して歩行者用信号情報を送信して、視覚障がい者や高齢者等の安全な交差点の横断を支援する「歩行者等支援情報通信システム」については、現時点、県内に設置してい

ませんが、本年度末までに、福岡市内の病院や駅付近の 4 か所において整備する予定としています。

来年度についても、関係機関と緊密な連携を図り、同システムの有効性を検証しながら、更なる整備に向けて取り組んでいきます。